

第60期 決算のご報告

2017年4月1日から2018年3月31日まで

株主通信

CONTENTS

- ① 株主の皆様へ
- ② 連結決算ハイライト
- ③ トピックス
- ⑤ 連結財務諸表
- ⑦ セグメント別概況
- ⑨ 会社の概要



株式会社 丸順

証券コード：3422

株主の皆様へ

ご挨拶



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび当社第60期決算（2017年4月1日から2018年3月31日まで）を終了いたしましたので、ご報告を申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2018年6月

代表取締役社長 齊藤 浩

連結業績の概況

当連結会計年度における世界経済は、米国では個人消費及び設備投資等の増加により着実な景気回復を続けております。欧州では、成長ペースがやや鈍化したものの、生産の持ち直し及び好調な輸出等により緩やかな回復を維持しております。アジアでは、中国は良好な雇用環境による個人消費の安定的な拡大や世界的な景気拡大による輸出の増加等により景気の持ち直しの動きが続いており、日本では良好な所得環境及び企業収益の改善により個人消費の持ち直しや設備投資等の増加がみられ、緩やかな回復を継続しております。

当社グループが属する自動車業界においては、タイでは、輸出が低調となっているものの、国内市場は徐々に回復に向かっております。中国では、小型車減税が縮小された影響により伸び率が低下し、急成長から緩やかな成長へと移行しつつも、好調な生産及び販売を維持しております。日本では、軽自動車の好調な販売により国内販売台数が底堅く推移しております。

このような状況のもと、当社グループは持続的な企業成長に向けた「丸順構造改革プラン」推進の最終年度として総仕上げが完了し、中長期的な成長に向けた取組みも順調に推進しております。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は50,278百万円（前年同期比9.4%減）、営業利益は4,092百万円（前年同期比52.6%増）、経常利益は2,953百万円（前年同期比53.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,933百万円（前年同期比13.0%増）となりました。

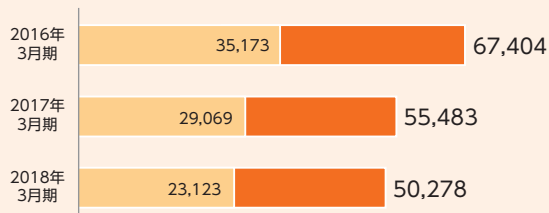
なお、当期におきましては、前期に引き続き営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の各利益段階で回復基調を維持しておりますが、配当原資となる個別財務諸表の状況等について検討した結果、誠に遺憾ながら、当期における年間配当は無配とさせていただきます。

連結決算ハイライト

売上高

50,278百万円 • 前年同期比 ↓

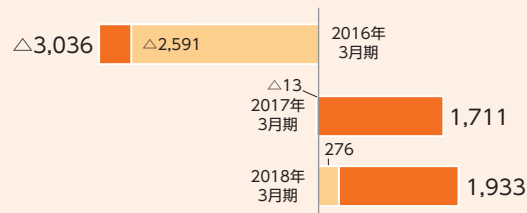
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位：百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

1,933百万円 • 前年同期比 ↑

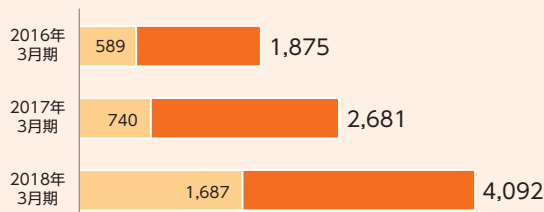
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位：百万円)



営業利益

4,092百万円 • 前年同期比 ↑

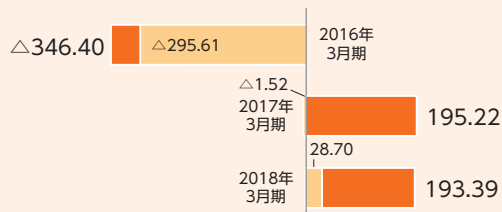
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位：百万円)



1株当たり親会社株主に帰属する当期純利益

193.39円 • 前年同期比 ↓

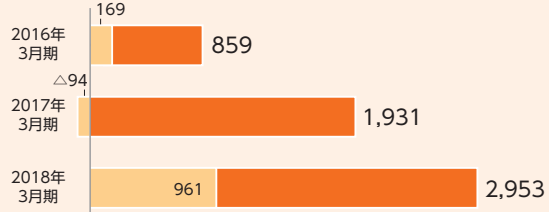
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位：円)



経常利益

2,953百万円 • 前年同期比 ↑

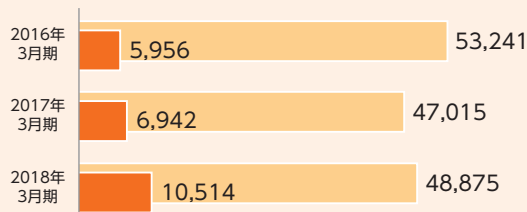
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位：百万円)



総資産・純資産

48,875百万円・10,514百万円

■ 総資産 ■ 純資産 (単位：百万円)



トピックス

Topics
1

丸順グループ中長期5ヵ年ビジョン・経営計画について

当社グループは、社長交代によるオーナー企業からの脱皮、経営危機からの脱却及び東プレ株式会社との資本業務提携締結等の大きな変化の時期を迎え、2018年度から新生丸順として企業フィロソフィを刷新いたしました。また、グループ中長期5ヵ年ビジョンを明確にし、連結目標値の達成に向け、6つの基本戦略を強力に推進してまいります。

新生丸順フィロソフィ

企業
理念

技術を磨き、お客様が望む優れた
製品・部品を提供することで
『従業員』『お客様』『地域社会』の
満足と幸せを追求します

社是

共創 努力 謙虚

経営
方針

- 従業員が夢とやりがいを持てる企業を目指します
- お客様より信頼され必要とされる企業を目指します
- 地域社会に貢献できる企業を目指します
- 株主に期待される企業を目指します

行動
指針

SPEED ACTION & 健智働功

中長期ビジョン

中長期5ヵ年ビジョン

丸順グループ中長期ビジョン2018－2022

技術で夢を

— Make our dreams by Technology —
自動車の軽量化・電動化の領域で、
お客様に圧倒的な技術力で貢献し、
競争力基盤・財務体質の向上を目指す

中長期基本戦略経営目標値

1. 東プレ提携シナジー最大化による財務体質強化
2. グローバルでの金型事業の強化・拡大
3. スーパーハイテン技術の競争力強化
4. 電動化関係部品の受注拡大
5. 全ての業務の管理手法（見える化）再構築とシステム化
6. 人材の「人財化」

2022年度末
連結目標値

→ 営業利益率…… 9%以上
→ 自己資本比率…… 40%以上

Topics
2

公募及び第三者割当による新株式発行

当社は、120万株の公募増資及び30万株の東プレ株式会社を割当先とする第三者割当増資を行うことを2018年5月25日開催の取締役会にて決議しました。調達した資金は日本における大型プレス機の導入など中長期5ヵ年計画を達成するための投資等の資金に充当されます。

Topics
3

東プレ株式会社との資本業務提携による相乗効果

2017年5月11日に東プレ株式会社（以下、東プレ）と締結した資本業務提携の進捗状況は以下のとおりです。

① 日本丸順 鈴鹿工場（通称/鈴鹿ニアサイト）の設立

鈴鹿工場は、当社及び東プレの主要取引先である本田技研工業株式会社（以下、Honda）向けの自動車部品生産の競争力を高めることを目的として設立いたしました。両社の生産能力や物流等を勘案し、一部の生産工程をHonda 鈴鹿製作所の近在である同工場に移管することで生産及び物流効率の向上を図っております。同工場は、物流動線にこだわったスペース効率の最大化及びIT活用により間接業務の効率化を図るとともに、高効率生産ラインを構築し、生産機能に特化しております。また、必要な生産設備に関しては、遊休設備等の有効活用により投資を最小限に抑えております。

② タイ・マルジュン社 TOPRE (THAILAND) CO., LTD. (東プレ子会社) より部品受注

タイ・マルジュン社は、東プレの子会社であるTOPRE (THAILAND) CO., LTD.より複数の自動車部品及び金型を受注いたしました。タイ・マルジュン社は高効率を追求したスマート工場であり、東プレとの業務提携を加速させることで、さらなる受注拡大と効率化を進めてまいります。

今後も生産・技術・購買・人材等の領域で相乗効果に向けた取組みを推進することで、相互に国内基盤の強化及びグローバル競争力の強化等を図ってまいります。



鈴鹿工場（三重県鈴鹿市）

Topics
4

武漢丸順社『CR-V』バッテリーケース量産開始

当社は、2017年に中国国内で販売開始したCR-V（ハイブリッドモデル）のバッテリーケース部品の量産を武漢丸順社にて開始いたしました。武漢丸順社のプレス、溶接技術及び日本丸順で培ったバッテリー部品量産ノウハウを基に、技術進化、拡張することで量産化いたしました。また、金型、治検具等、設備の現調化にも取組み、今後急速に拡大が見込まれる中国の電気自動車市場における受注拡大に対応してまいります。



Topics
5

日本丸順 N-BOXに続く超高張力鋼板の冷間プレス加工部品を受注

日本丸順は、本田技研工業株式会社（以下、Honda）から今夏に発売される軽自動車の新型車にて1180MPaの超高張力鋼板（スーパーハイテン）を冷間プレスで加工するセンターピラー外板部品を受注いたしました。当該部品の採用は、昨秋に発売されたHondaの新型「N-BOX」に続き2車種目となります。今後も安全性向上及び軽量化等のニーズが高まる自動車業界で、オンリーワンの技術確立するため、創業以来の金型ノウハウやオリジナル技術を磨くことで、超高張力鋼板の冷間プレス加工をさらに進化させてまいります。

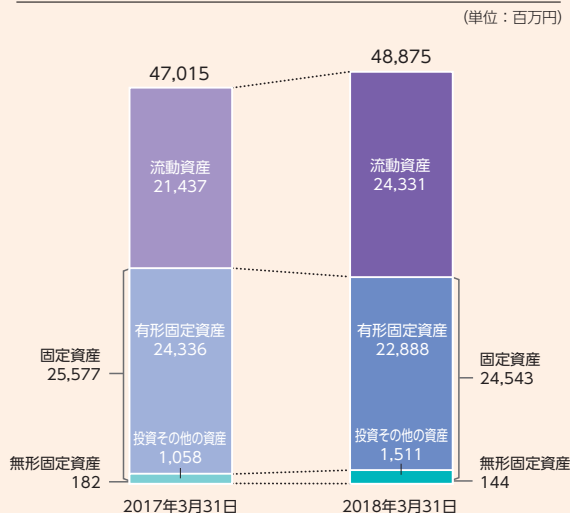


連結財務諸表

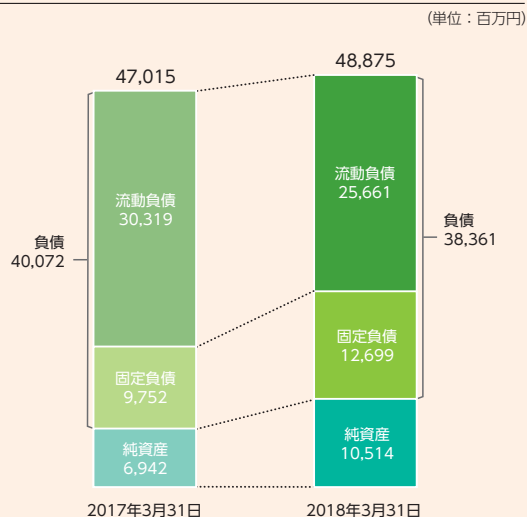
(単位：百万円)

連結貸借対照表(要旨)

資産の部



負債・純資産の部



《資産の部》内訳		2018年3月31日	2017年3月31日
流動資産	現金及び預金	8,664	7,573
	受取手形及び売掛金	11,026	10,025
	商品及び製品	339	474
	仕掛品	2,463	1,402
	原材料及び貯蔵品	742	742
	繰延税金資産	478	301
	その他	710	1,008
	貸倒引当金	△94	△91
有形固定資産	建物及び構築物	5,426	6,215
	機械装置及び運搬具	5,059	5,575
	工具、器具及び備品	5,534	5,961
	土地	615	754
	リース資産	1,340	1,697
	建設仮勘定	4,911	4,132
無形固定資産		144	182
その他の資産	投資有価証券	602	331
	繰延税金資産	191	202
	その他	724	541
	貸倒引当金	△7	△17

(単位：百万円)

《負債・純資産の部》内訳		2018年3月31日	2017年3月31日	
負債の部	流動負債	支払手形及び買掛金	6,506	5,508
		短期借入金	14,599	20,370
		リース債務	403	572
		未払法人税等	268	120
		賞与引当金	129	119
	その他	3,752	3,628	
	固定負債	長期借入金	10,741	7,076
		リース債務	455	778
		繰延税金負債	177	161
		退職給付に係る負債	967	938
資産除去債務		149	138	
その他	207	659		
純資産の部	株主資本	資本金	1,198	1,037
		資本剰余金	1,096	935
		利益剰余金	2,210	351
		自己株式	△0	△626
	その他の包括利益	その他有価証券評価差額金	71	83
		為替換算調整勘定	2,024	1,721
		退職給付に係る調整累計額	△33	△131
非支配株主持分		3,944	3,569	

連結貸借対照表について

資産総額の増加要因は、現金及び預金1,090百万円の増加、受取手形及び売掛金1,000百万円の増加等であり、負債総額の減少要因は、短期借入金5,770百万円の減少、長期借入金3,664百万円の増加等であり、純資産の増加要因は、利益剰余金1,859百万円の増加、自己株式の処分による626百万円の増加、為替換算調整勘定302百万円の増加、非支配株主持分375百万円の増加等であり、

連結損益計算書について

売上高は全拠点で増収となるものの、北米事業（インディアナ・マルジュン社）からの撤退により前年同期比減収となりました。しかし、営業利益及び経常利益では、主要客先の増産影響や生産効率向上・固定費抑制等の原価低減の取組みを実施し、前年同期比増益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益では、前年に比べ特別損失が減少したことに加え、株式会社ホンダ四輪販売丸順の譲渡による子会社株式売却益等を計上いたしました。これらの結果、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の全てにおいて2期連続で過去最高益を更新いたしました。

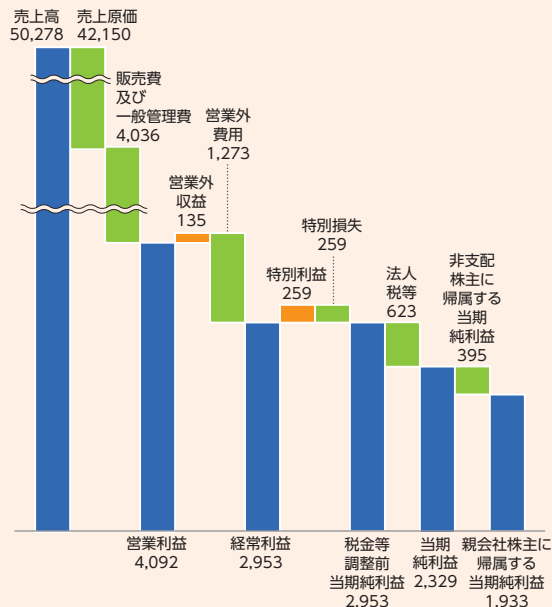
連結キャッシュ・フロー計算書について

現金及び現金同等物の期末残高は前連結会計年度末に比べ1,090百万円増加いたしました。営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益2,953百万円、減価償却費5,154百万円等によるものです。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出3,432百万円等によるものであります。財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金4,220百万円の減少、長期借入金1,555百万円の増加等によるものです。

連結損益計算書(要旨)

2017年4月1日～2018年3月31日

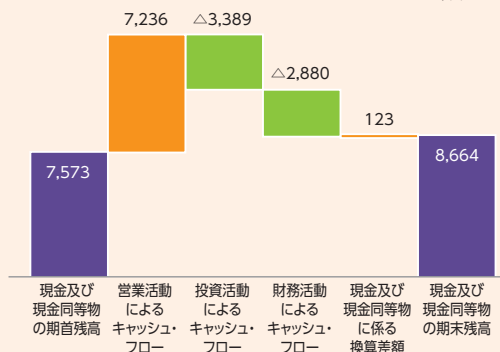
(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

2017年4月1日～2018年3月31日

(単位：百万円)



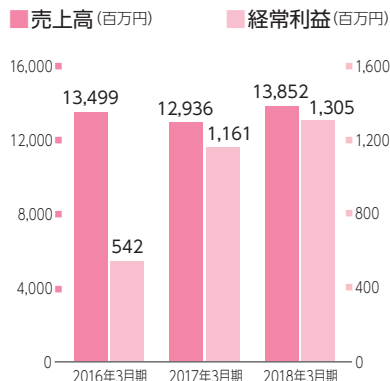
セグメント別概況

丸順
〔株式会社丸順〕

増収増益

丸順においては、エンジニアリング事業における専用投資の販売等が減少したものの、主要客先向け自動車部品の生産が増加したことにより、売上高は増加いたしました。また、「丸順構造改革プラン」の継続推進及び新型車の部品生産立上げに伴う原価低減の取組みにより利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は13,852百万円（前年同期比7.1%増）、経常利益は1,305百万円（前年同期比12.4%増）となりました。



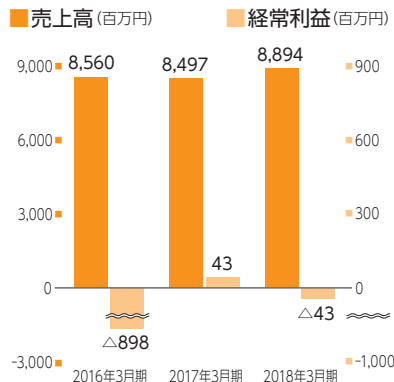
セグメント別

タイ
〔タイ・マルジュン社〕

増収減益

タイにおいては、部品事業で売上高が増加したものの、エンジニアリング事業では売上高が減少し、現地通貨ベースでは売上高が減収となったものの、円安による為替影響により邦貨ベースでは増収となりました。しかしながら、新型車の部品生産立上げに伴い、購入費の構成に変化があったほか、品質コストが上昇したことにより利益は減少いたしました。

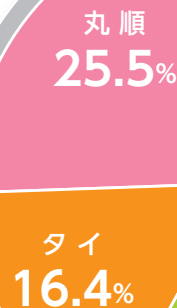
以上の結果、売上高は8,894百万円（前年同期比4.7%増）、経常損失は43百万円（前年同期は43百万円の経常利益）となりました。

広州
〔広州丸順汽车配件有限公司〕

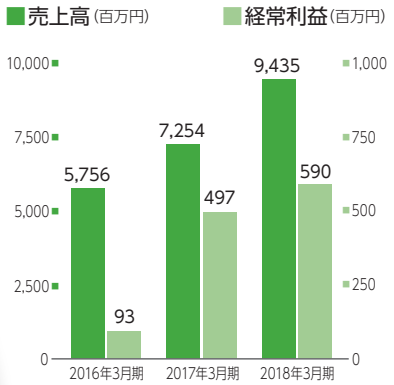
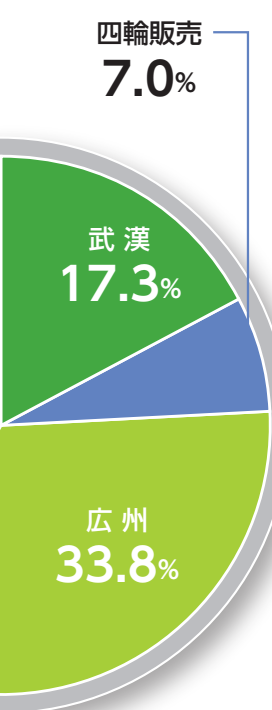
増収増益

広州においては、エンジニアリング事業で専用設備の売上高が減少したものの、部品事業での主要客先の増産等により売上高は増加いたしました。また、内外作最適化の取組みや業務効率改善による要員最適化等の固定費抑制の取組みにより利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は18,374百万円（前年同期比8.8%増）、経常利益は1,394百万円（前年同期比65.0%増）となりました。



売上高構成比率

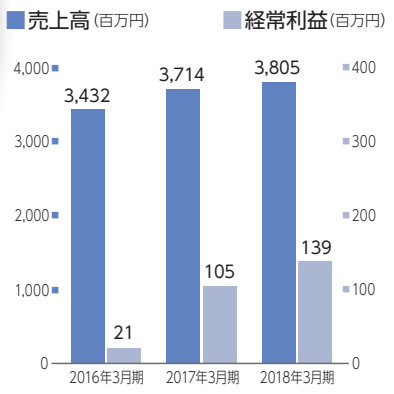


増収増益

武漢においては、主要客先の大幅な増産影響を受け売上高が増加いたしました。また、生産効率向上の取組みにより増産に伴う労務費等の固定費増加を抑制したほか、為替差損等の営業外費用が減少したことにより、利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は9,435百万円（前年同期比30.1%増）、経常利益は590百万円（前年同期比18.7%増）となりました。

【武漢丸順汽車配件有限公司】
武漢



増収増益

四輪販売においては、中古車販売台数は減少したものの、新車販売台数が増加したことにより売上高は増加いたしました。また、経費削減や積極的なサービス提案等による1台あたりの利益率向上の取組みにより、利益は増加いたしました。なお、2018年3月30日付で株式会社ホンダ四輪販売丸順の全株式を譲渡したため、当事業年度より当社の連結範囲から除外されております。

以上の結果、売上高は3,805百万円（前年同期比2.4%増）、経常利益は139百万円（前年同期比32.8%増）となりました。

【株式会社ホンダ四輪販売丸順】
四輪販売

会社の概要

会社概況

(2018年3月31日現在)

商号

株式会社 丸順 (英文社名: MARUJUN CO., LTD.)

創業

昭和27年7月

(創業者: 今川 順夫)

設立

昭和35年1月

資本金

1,198百万円

事業内容

自動車用車体プレス部品の製造

自動車用精密プレス部品の製造

各種金型の設計・製作

治具・検査具の設計・製作

従業員数

309名 (連結2,383名)

役員

(2018年6月22日現在)

代表取締役社長 齊 藤 浩

常務取締役 青 山 秀 美

取締役 猪 熊 篤 俊

取締役 松 井 恒 夫

取締役 棚 橋 哲 郎

取締役 湯 川 好 春

取締役 上 田 勝 弘

常勤監査役 馬 淵 仁

監査役 水 谷 博 之

監査役 堀 田 政 道

執行役員 山 崎 英 次

執行役員 森 和 行

(注) 1.取締役 上田勝弘氏は、社外取締役であります。
2.常勤監査役 馬淵仁氏、監査役 水谷博之氏は、社外監査役であります。

事業拠点

(2018年6月22日現在)

本社・上石津工場

岐阜県大垣市上石津町乙坂130-1

浅西工場

岐阜県大垣市浅西3-22-22

養老工場

岐阜県大垣市上石津町牧田2947-1

鈴鹿工場

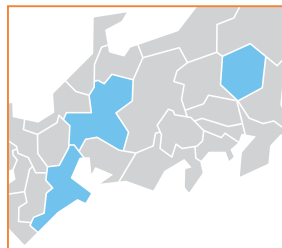
三重県鈴鹿市国府町7755

(株式会社 日本陸送内)

栃木開発センター

栃木県宇都宮市ゆいの杜1-5-40

とちぎ産業交流センタービル202号室



広州丸順汽车配件有限公司(子会社)

中華人民共和国広東省広州市

広州経済技術開発区永和経済区

永盛路8号



武漢丸順汽车配件有限公司(子会社)

中華人民共和国湖北省武漢市

東湖新技術開発区光谷一路223号

タイ・マルジュン社(子会社)

NONG KHAE INDUSTRY ESTATE BAN

NONGSAMAK 62 MOO-6, KOKYAE, NONG

KHAE, SARABURI 18230, THAILAND

ベストテックス・MM・インディア社(出資会社)

SPL-2B, TAPUKARA INDUSTRIAL AREA, KHUSHKHERA,

DISTT. ALWAR, RAJASTHAN-301707, INDIA

株式の状況

(2018年3月31日現在)

株式数及び株主数

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数 (自己株式128株含む)	10,357,200株
株主数	719名

大株主の状況

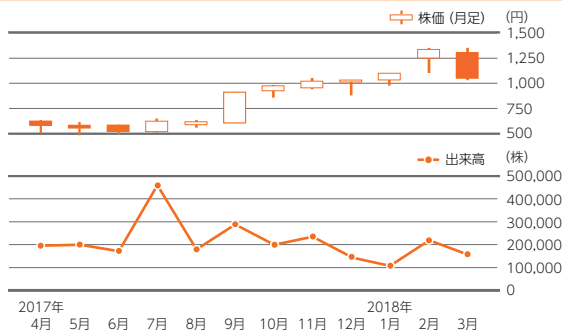
(2018年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
東プレ株式会社	2,070,700	19.99
今川 喜章	1,026,670	9.91
本田技研工業株式会社	988,950	9.55
今川 順夫	476,370	4.60
太平洋工業株式会社	463,950	4.48
名古屋中小企業投資育成株式会社	371,000	3.58
今村金属株式会社	336,400	3.25
株式会社三菱東京UFJ銀行	325,000	3.14
株式会社大垣共立銀行	300,000	2.90
有限会社イマガワ	300,000	2.90

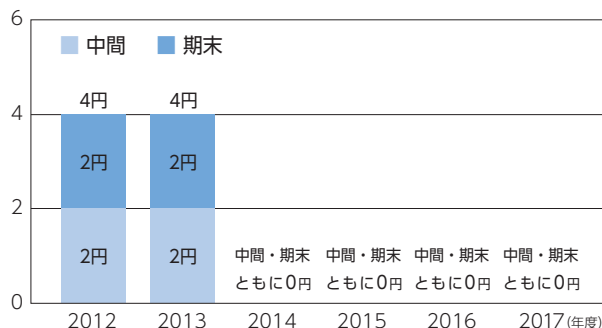
(注) 当社は、自己株式128株を保有しております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日付で株式会社三菱UFJ銀行に商号を変更しております。

株価チャート



配当金の推移

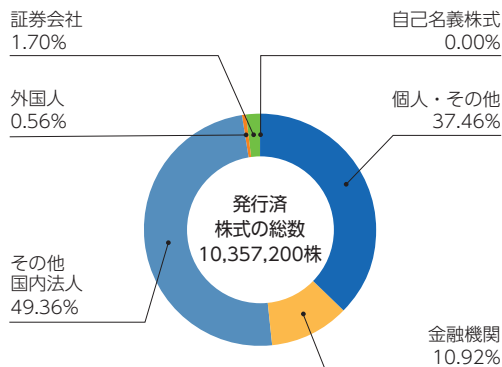


当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策の一つであると考えており、配当性向、株主資本配当率、内部留保及び今後の業績動向等を総合的に勘案し、長期的視点に立った成果配分を行うことを基本方針としております。

当期におきましては、前期に引き続き営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の各利益段階で回復基調を維持しております。しかし、個別決算においては2014年度に2期連続の営業損失及び2015年度に3期連続の当期純損失を計上しており、配当原資となる個別財務諸表の状況等について検討した結果、誠に遺憾ながら、当期における年間配当は無配とさせていただきます。

株式数構成比

(2018年3月31日現在)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日 期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の 本店及び全国各支店で行っております。

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページ

株主・投資家情報をはじめとするIR情報から技術の紹介等様々な会社情報を随時掲載しております。ぜひ、当社ホームページをご覧ください。

<http://www.marujun.co.jp/>

名証IRエキスポ2018に出展

開催日 2018年7月20日(金)・21日(土)
10:00~17:00

場 所 名古屋市中小企業振興会館
(吹上ホール)

参加費 無料

当社は、7月20日(金)・21日(土)に名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)にて開催される「名証IRエキスポ2018」へ出展いたします。

当日は、投資家の皆様向けのブースツアー等の様々なイベントを実施予定です。また、特設ステージでは、人気講師による講演会(無料)が開催されます。

皆様のご来場をお待ちしております。



昨年度(名証IRエキスポ2017)の当社ブースの様子です。